

平成24年5月29日

花咲プロジェクトに参加して

今回は、野田中学校仮設住宅とえぼし荘仮設住宅に行ってきました。最初に行った野田中学校仮設は107世帯の方が入居しているとのこと、お天気も良かったので私達が到着したら沢山の方が集まってきて下さいました。全員に均等に行き渡ると、自治会長さんに名簿とあわせてチェックしていただきましたが、こちら不慣れなため少し手間取ってしまいました。107世帯という大所帯をまとめていくには、やはり強力なリーダーが必要なようで、長い年月の中で培ってきた共同体というものとは違った印象を受けました。

次に行ったえぼし荘仮設は8世帯という小規模なもので、入居されている方も同じ地区で、震災前からの隣近所の方たちだそうです。お互いにずっと知っている者同士という安心感なのか、みんなで助け合って生活しているという雰囲気が窺えました。

どちらの仮設でもたいへんよろこんでいただきましたが、この方々はみんな家を流されてしまった方々なんだと思うと、改めて今回の震災の被害の大きさに胸が痛みました。

仮設住宅は読んで字のごとく、あくまでも仮の住まいです。一応2年という期限付きのものであるのに、もう1年以上も経つというのに先の見通しは立っていないことの方が多いのです。

野田から帰ってきた日に、釜石で災害復興公営住宅建設の覚書が県と市で調印されたとのニュースがありました。これでも竣工は来年の夏だそうです。一日も早く、仮設住宅がなくなりあたりまえの日々の生活が戻ってくることを祈らずにはられませんでした。



野田村仮設住宅にて



えぼし荘仮設住宅にて

記：岩手県建築士会・豊川映子



久慈市仮設住宅



宮城県より寄贈のシールを貼付



野田保育所（仮設）にて



野田村長の講演



野田村長・久慈支部の方々と懇親会

【花咲プロジェクト参加者】
神奈川士会より1名
岩手士会（盛岡・久慈・花巻）
より12人+子ども3人